

# 令和5年度 学力調査等の分析

## 立川市立南砂小学校

### I 全国学力・学習状況調査【国語】の結果より

#### 【国語】（令和5年度）

調査内容のうち、全ての項目において全国平均を下回っているが、特に「A 話すこと・聞くこと」に関する力に課題があると言える。「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること」や、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること」などの力を付けていく必要がある。話すこと・聞くことの問題の回答内容を見ると、「話の内容を捉え、自分の考えをまとめる問題」では、本校の無回答率は30%と高い。（東京都18%、全国14%）文章や図から情報を取り出して記述する設問に慣れ、回答率を上げていくことが課題である。無回答の原因としては、まったく分からないということ以外に、自分の回答に自信がないということが考えられる。自信をつけさせるためには、話し合う場を設定し、表現する力を高める経験を増やすことが重要である。文章や資料に対する自分自身の考えを明確にして、互いの感想や意見を伝え合う場を設定したり、自分の考えと他人の考えを比較して、共通点や相違点を検討したりすることで、自信をもって自分の考えを表現する力をつけさせていきたい。その基礎的な力を基に、読み深める力も付けていけるよう指導に当たっていく。また、読書活動を充実させることで、日頃より文章読解に慣れ親しませることが重要である。

#### 【国語】（令和5年度）全体

|         | 平均正答数  | 平均正答率（%） |
|---------|--------|----------|
| 本校      | 9.1/14 | 65       |
| 東京都（公立） | 9.7/14 | 69       |
| 全国（公立）  | 9.4/14 | 67.2     |

#### 問題

川村さんは（学校で取り組んだ米作りについて文章を書く際に）、米作りの問題点と解決策について文章を書こうとしています。あなたが川村さんなら、どのように書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（1-2【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く）

この問題の正答率は全国26.7% 本校23.3%と低い。この設問では、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができかどうか問われている。

図表やグラフなどを用いるのは、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が示すべきことが分かりやすい場合である。教科横断的な学習を通して、国語以外の授業でも、観察や実験、調査の結果などを記述する際には、図表やグラフを用い、自分の考えを深めたり、相手にとってよく理解できるものにしたりする経験を積むなどの指導の工夫が必要である。

### 2 東京ベーシック・ドリル診断シートAの結果より

令和5年6月、2年生から6年生が東京ベーシック・ドリル診断シートAを実施した。その結果について、当該学年の単元別の正答率や、立川市の平均正答率との比較を行い、本校の児童の実態、課題等を以下のように捉えた。なお、課題と考えられる単元については、その傾向が顕著なものを抜粋した。

・四則計算（整数、小数、分数）の技能については、学年により若干のばらつきがあるものの、おおむね立川市の平均並みの正答率であった。

〈課題が見られた単元・内容〉

- ・小1診断シートA（小2実施） 文章題（2けた＋1けた 2けた－1けた） 時計を読む問題
- ・小2診断シートA（小3実施） 図形の用語とその意味（頂点、辺、面）
- ・小3診断シートA（小4実施） 問題場面を図に表す問題 時間や時刻 図形
- ・小4診断シートA（小5実施） 図形の角度 折れ線グラフを読み取る問題
- ・小5診断シートA（小6実施） 小数×小数 割合 図形の体積

学習指導要領で育成を目指す、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う出題に関し、算数においては、図形を構成する要素などに着目して、その性質や計量について考察することや、問題解決の過程や結果を振り返って考察することに課題が見られた。以上のことから、授業では、算数と日常生活とを結び付けて思考させるための数学的活動の工夫が求められる。特に、児童自ら問題場面を絵や図、表、グラフ、式で表す活動を意図的に設定したり、学んだことと生活とを結び付けて振り返りを行ったりすることで、より充実した算数の学習になると考えられる。また、児童一人一人の実態に応じた指導を充実させるため、少人数制の補習教室（チャレンジタイム）やタブレットドリルを積極的に活用して習熟を深める。

### 3 東京都児童・生徒体力・運動能力調査の結果より

令和4年度体力テストの結果より、特定の種目や特定の学年に顕著な課題があるということではなく、持久力、柔軟性、敏捷性、跳躍力、巧緻性等、体力・運動能力にかかわるあらゆる力の向上を意識した指導をしていかなければならないと考える。低学年の段階では、数値が良い傾向にあるので、それについては、維持・向上できるようにしていく。

そのために、まずは体育の授業改善を第一に考える。45分の中で運動量を確保することや、運動の楽しさや喜びなどの特性により多く触れさせることを意識した授業づくりを校内全体で考えていく。体育の授業において運動の楽しさに充分触れることで、日常的にも運動に親しむ児童を育てていく。

また、朝の時間や休み時間を活用したり、用具を充実させるなどの環境を整えたりする必要もある。児童が気軽に運動に取り組める環境を整えることが運動の日常化につながっていくと考える。運動に意欲的に取り組み、様々な運動を経験することが体力の向上には必要なことであり、本校の課題として取り組んでいく。

### 4 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果より

南砂小学校の結果は、東京都の平均と概ね同じであった。一方、下記の項目は東京都の平均を数ポイント下回っている。下の項目を意識して授業を改善する。

#### （1）国語

自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。

発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えてから話している。

文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる。

#### （2）算数

答えだけではなく、途中の計算も書いている。

簡単に計算することができないかを考えてから計算している。

算数で学習する言葉や公式は、見ないでも言えるようにしている。